

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第128回 ●

■ チーム世界戦②

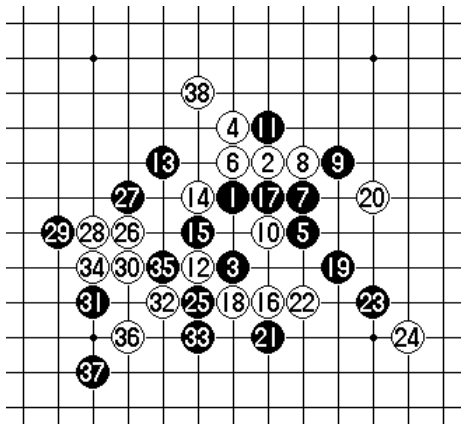
今回は前回の続き、チーム世界戦の局をお届けしよう。最近は初心者、初級者指導が多かったので、世界トップレベルの棋譜を解説するのは難しいが、ポイントを絞って紹介したい。

● 2回戦

黒 日本2 藤田麻衣子
白 日本1 中山智晴

2回戦は自国同士が組まれることが多い。優勝争いに影響を与えるため、後半には自国同士は組み合わせないためである。日本チーム同士が激突した。

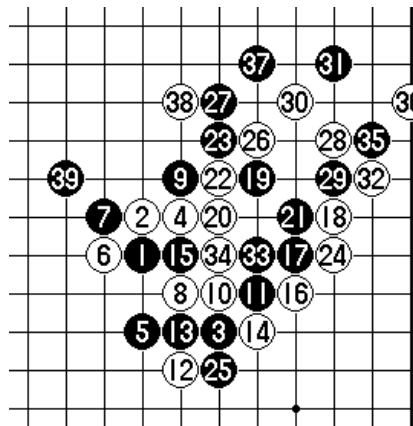
明星で白4はいかにも五珠交替打ちらしい一手である。黒5で互角なのかはよくわからないが、これなら



どちらを持って打てる気がする。白6では一路左に打ちたいが、同じように黒7に打たれると少し損な気がする。黒11ではつい17に三を引いてしまいたくなるが、それでは狭い。17の点はお互いに相手に打って欲しい場所になるため、黒17で黒石が入ることになっては白の作戦は成功だろう。以下何とかついて行ったのだが、白38で白は気分が良さげに展開になった。この後右下で白は勝ちを出している。白が貫録を示した。

● 2回戦

黒 日本2 福井暢宏
白 日本1 館雅也

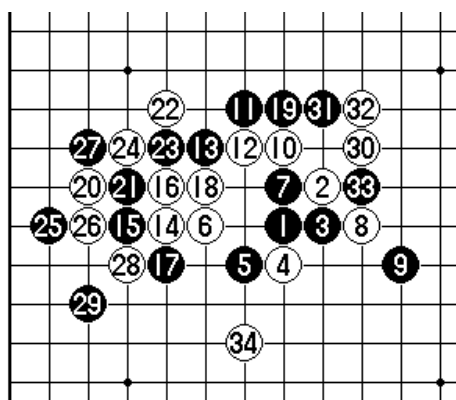


同じく日本チーム同士の一戦。今度は日本2チームの福井君が勝ち、下剋上となった。福井君が実戦を打つのも久しぶりなのではないだろうか。A級棋士を見事に撃破した。

遊星から明星共通に戻り、黒19まではよくある形だが、白の無理攻めを誘って黒39に手をまわしては黒好調。以下ほどなく黒勝ちとなった。福井君、A級にまた出てきてよ!

● 3回戦

黒 台湾 林皇羽
白 日本1 神谷俊介

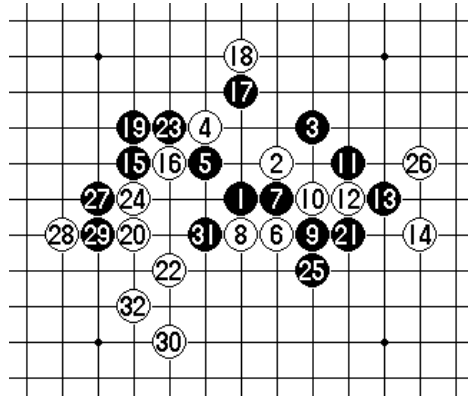


台湾は非常に好プレーヤーが多く、油断できないのだ。その中でも林君は名人を争うメンバーで、本局は屈指の好勝負だろう。黒5までなら白6と打ち白に不満はない。黒が好きなのは至難の業だ。序盤の駆け引きから面白く、黒13にすかさず白14と攻撃したのは鋭い。黒19反対は三々禁になる。白30で決まったかに見える。

だが、黒31が粘りのある防ぎ。白はいったん34に防いだ。以下難解な展開が続く、白90まで白勝ちとなった。

● 3回戦

黒 日本1 中山智晴
白 台湾 林書玄

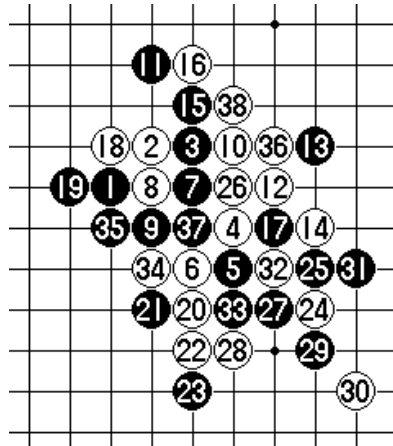


林書玄さんは今の台湾では最強ではないかと思う。本局は中山君の勘違いだがよく読んでいる。黒21の手抜きが敗着で、白22から攻められた。慌てて黒23と止めたが、白24が成立する。直前で止めた白18の石が光っている。黒25を26なら

白25と止めて、これが含み手になってるのがミソだ。

● 4回戦

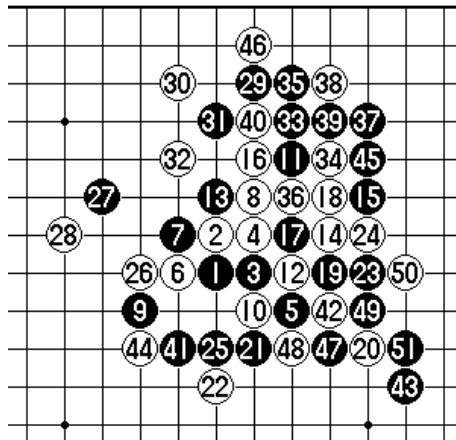
黒 日本2 丸田浩貴
白 中国1 梅凡



4回戦は日本2と中国1が当たった。何とか1勝も取りたいところだ。だが、中国はやはり強かった。名前に恐れたか、丸田君の手も伸びない。黒11は捻りすぎで普通に12と叩く所だろう。最後に、黒27と余分な三を打ったばかりに止めた石が使われて勝ちを出されてしまった。結局中国1には0勝4敗であった。

● 5回戦

黒 日本1 神谷俊介
白 韓国 Lee Ho June

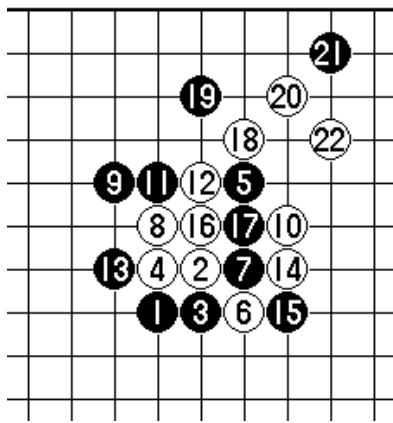


続く5回戦、日本1は韓国との対戦。やはり神谷名人は頼りになる。白の無理攻めを誘って快勝した。ただ、この形はずいぶん昔に白勝ちの結論になったと思うのだが、本局は雲月からそのスタートなので盤端までの距離が一路違う。そこに神谷名人の研究があったのではないかと思う。黒25とじっくり押さえ、最後にその石を使って勝つのは研究

の現れである。こういう細かい所を作戦にすると勝率も上がってくる。

● 5回戦

黒 日本2 田中祥太郎
白 中国2 曹冬



同じく5回戦、日本2は中国2との対戦。中国に連続で当たるのはやはりキツイ。世界戦優勝経験がある曹冬との対戦になったが、少しでも強さを吸収してほしい。そういう意味では少々物足りなかった。田中君の打った黒13は一目でダメとわかる手で、もう少し粘りたかった。